

## 2億1千万人の大移動「春運」

岡山県上海事務所 専任スタッフ 馬小琳

### 春節に行われる2億1千万人の大移動

2月14日、中国は年に一度の春節（旧正月）を迎えました。中国人にとって、春節は日本人にとっての元旦と同じように大切な日です。家族と離れて暮らす人々は、帰省して家族や親戚、友人と故郷で過ごすことを、何よりも楽しみにしており、毎年、この時期になると、帰省列車の切符のことが大きな話題になります。

この春節の時期に行われる人々の大移動のことを、中国では特に「春運」と呼んでいます。これは「春節前後の旅客運輸」という中国語を略したものです。

鉄道部門の調べによると、今年の春節期間中、鉄道を利用して帰省する人は2億1千万人に達する見込みです。また、飛行機の利用者も2,894万人が見込まれています。この驚くべき数字からも、春運は「人類の一番大きな定期的な大移動」と言えるでしょう。



雨の中、列車に乗り込むために行列する帰省客

### 「一票難求」と呼ばれる切符の入手難

今年の春節の法定休日は、2月13日から2月19日までです。2億1千万人による大移動が、この期間を中心とした40日間に集中するため、毎年この時期には「一票難求」（一枚の切符さえ手に入れるのが非常に難しいという意味）と呼ばれる状態になります。現在、中国では、鉄道の発展に切符販売システムなどの基礎設備の整備が追いついておらず、切符を購入するため、駅の切符売り場の前に、数時間どころか深夜から一日中ずっと列を作って並んでいる人がたくさんいます。やっと自分の番になっても、そのときには切符が売り切れているということさえあります。

そのため、中国にも、日本の「ダフ屋」と同様に、入手した切符を他人に高価で転売する「黄牛」と呼ばれる人たちが存在します。この名の由来ははっきりしませんが、おそらくは牛のように雨の中風の中を苦労しながら切符を買うためと思われる。「黄牛」は、普段なら30元の手数料で切符を配送してくれますが、春節の時期には、なんと3倍から6倍に手数料が跳ね上がります。しかも、手数料さえ払えば必ず切符が手に入るとは限りません。

### 「春運」対策も進められているものの……

10年ほど前から毎年発生しているこのような混乱に対し、「早く鉄道を改革せよ」という批判の声が高まっています。この問題を少しでも早く解決するために、鉄道部門もいろいろな工夫を重ねています。切符売り場の増設、警備員の増員などに加え、今年からは、電話予約も始まり、また、広州駅などの大きな駅では、切符

を購入する際、身分証明書を提示するシステムが試行されました。これはダフ屋による買い占めやコネによる切符の購入を防ぎ、平等に販売するためのシステムですが、残念ながら著しい効果はまだ出ていないようです。



春运時期の運行案内が表示された上海駅の電光掲示板

中国人が春節に対して特別な感情を抱いているからこそ「春运」という社会現象が生じました。現在、帰省切符の購入難は続いています。動車組（高速列車）や高鉄（中国式新幹線）が次々と建設されるなど、中国の鉄道は目覚ましい発展を続けています。春節の帰省切符を簡単に手に入れられるようになる日は、そう遠くないでしょう。

(2010年2月)